級位者から見た恩方囲碁同好会

恩方囲碁同好会　岡本秀俊

まず初めにお断りさせて頂きたいのは、恩方囲碁同好会の特色は創立30周年記念誌に、わが同好会の尾崎健二幹事が紹介していますので、私としては囲碁を始めた辺りから恩方囲碁同好会に入会し、現在、どのように同好会で過ごしているかを拙い文章ではありますが書かせて頂きます。

　囲碁を始めたのは平成29年４月に初心者教室に入会したのが始まりで、それまでは碁石を持つことはありませんでした。NHKの初心者講座で半年間学びながら初心者教室に通っていましたが、早く上達したいという思いから知人の紹介で恩方囲碁同好会に入会したのは平成30年２月のことでした。9級から始めましょうと吉澤元会長から紹介された後、当時の池田六段に声をかけて頂き、まだまだ何も分からない私と打って頂いたのが同好会でのスタートでした。有段者の方が初心者の私に声をかけて頂いたことに驚きましたが、「級位者を初段にする」をモットーに取り組んでいる同好会の表れと後日理解した次第です。

　特に金曜日の研究会では９時前から40分程度、関根顧問から石の方向性や発展性など対局とは違った視点での講義があり、10時からは対局を観ながら有段者の方が脇から、打った手の良し悪しや意味合いなどの指導があります。ただ囲碁を楽しむ同好会ではなく、早く昇級させたいとの思いで恩方囲碁同好会を運営されてい

る役員、幹事、諸先輩には全級位者は感謝をしております。そして、その想いに応えるべく努力をし、楽しんでおります。級位者を大切に育てているところが恩方の素晴らしい一面ではないでしょうか！会員が増えているのが何よりのことと思います。まだまだ話しは尽きませんが紙面の都合上、ここらで終わらせて頂きます。

2020 年 2 月 8 日